

リバウンド防止措置期間終了後の夜間に都内繁華街を訪れた若者の意識調査

2021.12.03

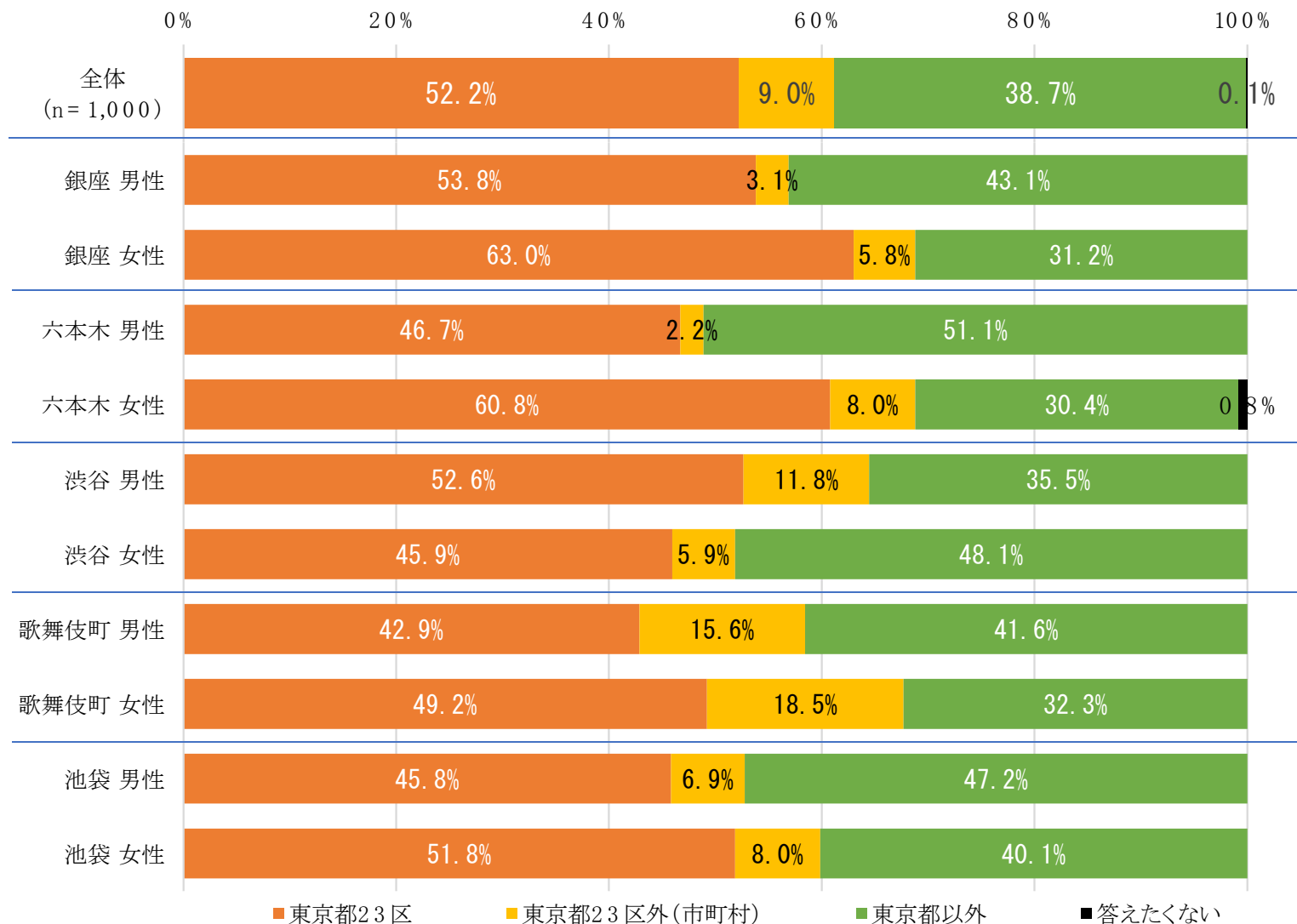
- ◆ 調査方法 : オンライン調査
- ◆ 調査対象 : 2021年10月25日～同年10月31日の18時以降に銀座・六本木・渋谷・歌舞伎町・池袋周辺を訪れた15歳から39歳までの者（居住・通勤・通学除く）
- ◆ サンプルング方法およびサンプル数 : 上記期間・地点のスマートフォンの位置情報をもとに対象者を抽出（ジオターゲティング） 合計 1,000サンプル

	銀座	六本木	渋谷	歌舞伎町	渋谷
男性	65	45	76	77	72
女性	138	125	135	130	137

- ◆ 調査期間 : 2021年11月12日～同年11月18日
- ◆ 調査項目 : ○繁華街の来訪目的 ○繁華街の来訪時に気を付けたこと
○新型コロナウイルスに対して現在考えていること
○緊急事態宣言解除前後での新型コロナウイルス感染症対策に関する行動の変化 など

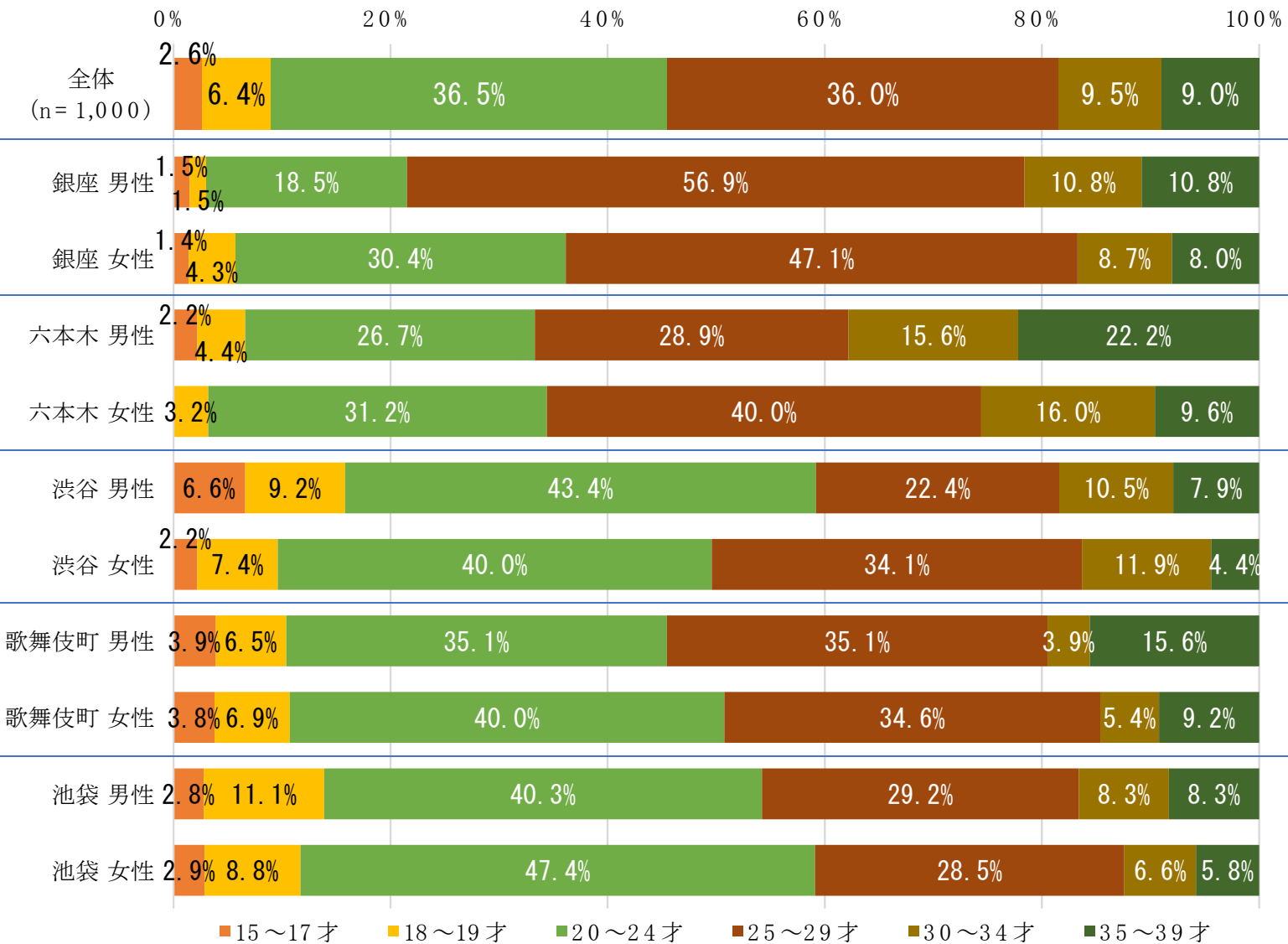
Q1

あなたのお住まいは以下のどれにあてはまりますか？



- ◆ 繁華街へは、23区内と東京以外からの流入で大きく二分されている。
- ◆ 東京都以外からの流入が全体の4割近くを占める。
- ◆ 歌舞伎町は東京都23区外の割合が他の繁華街より大きい。

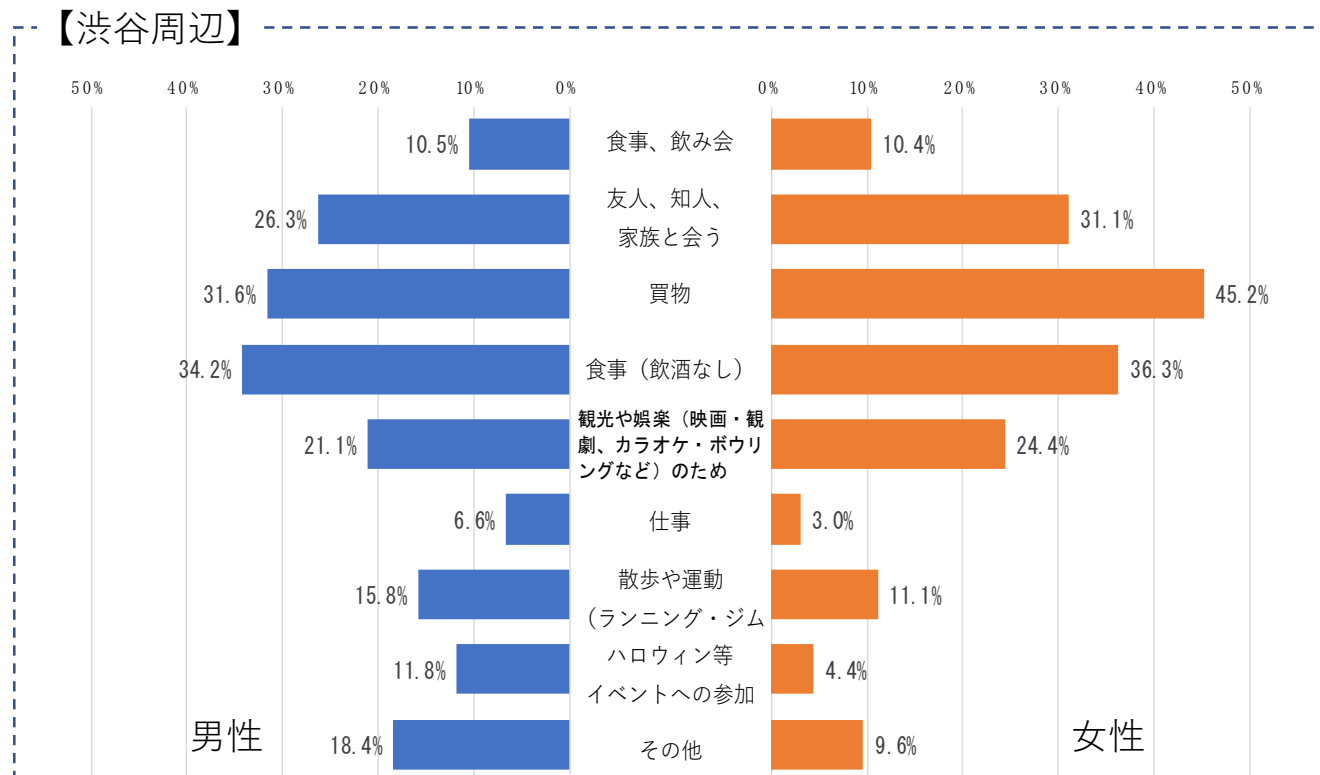
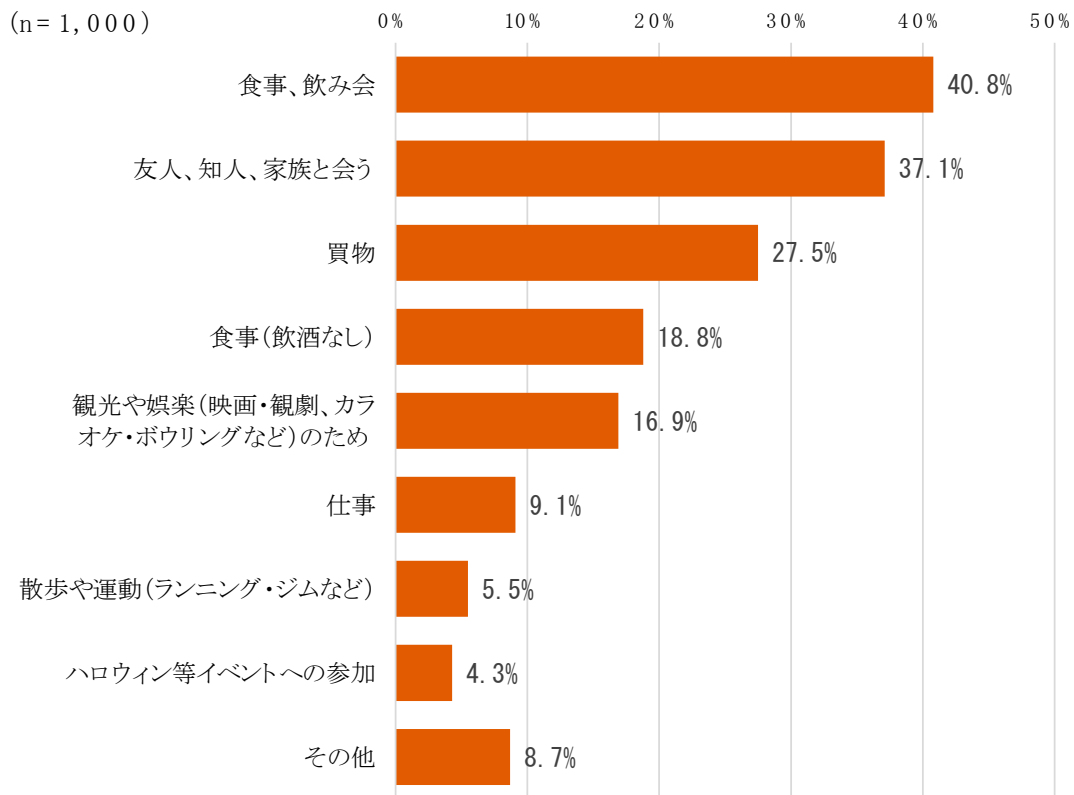
Q2 あなたの年齢は？



- ◆ 全体では20代までが約8割を占めている。
- ◆ 渋谷・池袋では、若者の中でも15～24歳の年齢が低い層が半数を超えている。

Q3

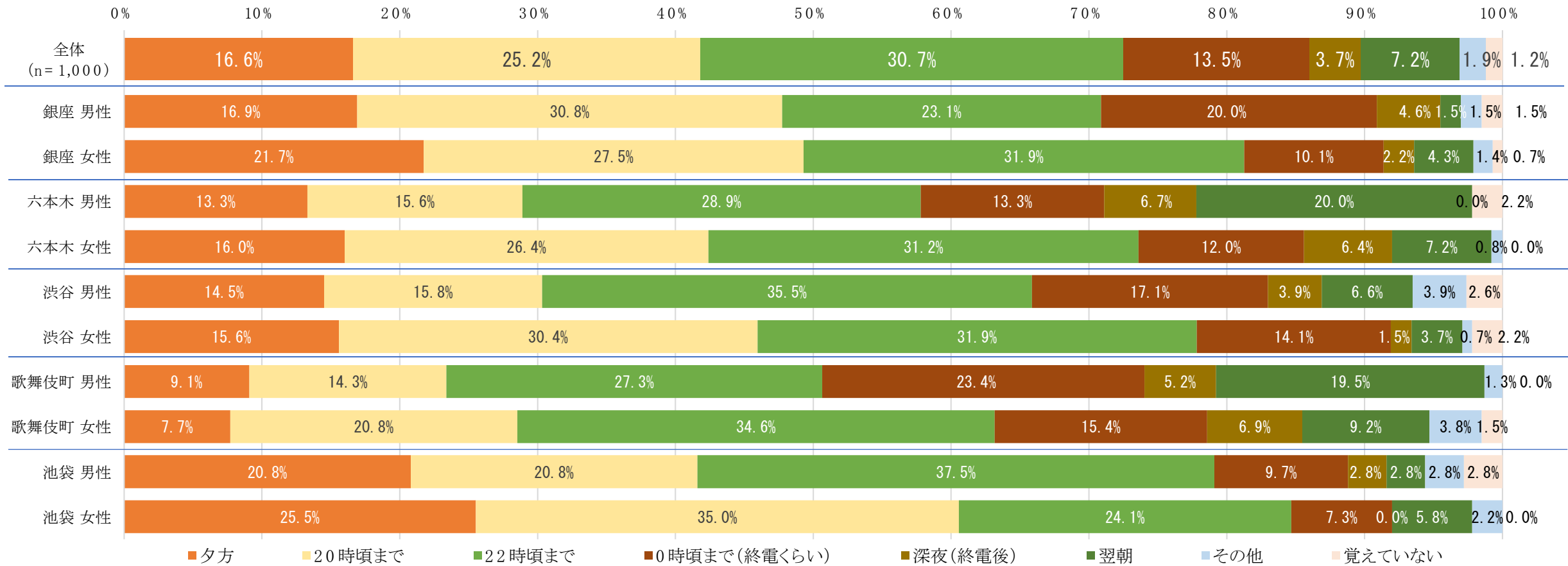
先月最終週の夜間に訪れたと回答したエリア（銀座、六本木、渋谷、歌舞伎町、池袋）へは何をしに行きましたか？【複数回答】



- ◆ 「食事・飲み会」「友人、知人、家族と会う」「買い物」が多くを占めている。リバウンド防止措置期間が終了し、都の認証を受けた飲食店や施設への時短営業の要請が解除されたことも影響していると考えられる。
- ◆ ハロウィン時期に混雑が予想される渋谷周辺であるが、「ハロウィン等イベントへの参加」の割合は高くない。
- ◆ 渋谷周辺で「食事(飲酒なし)」が多いのは、未成年者の回答者が多かったことによるものと考えられる。

Q4

どのくらいの時間まで滞在していましたか？

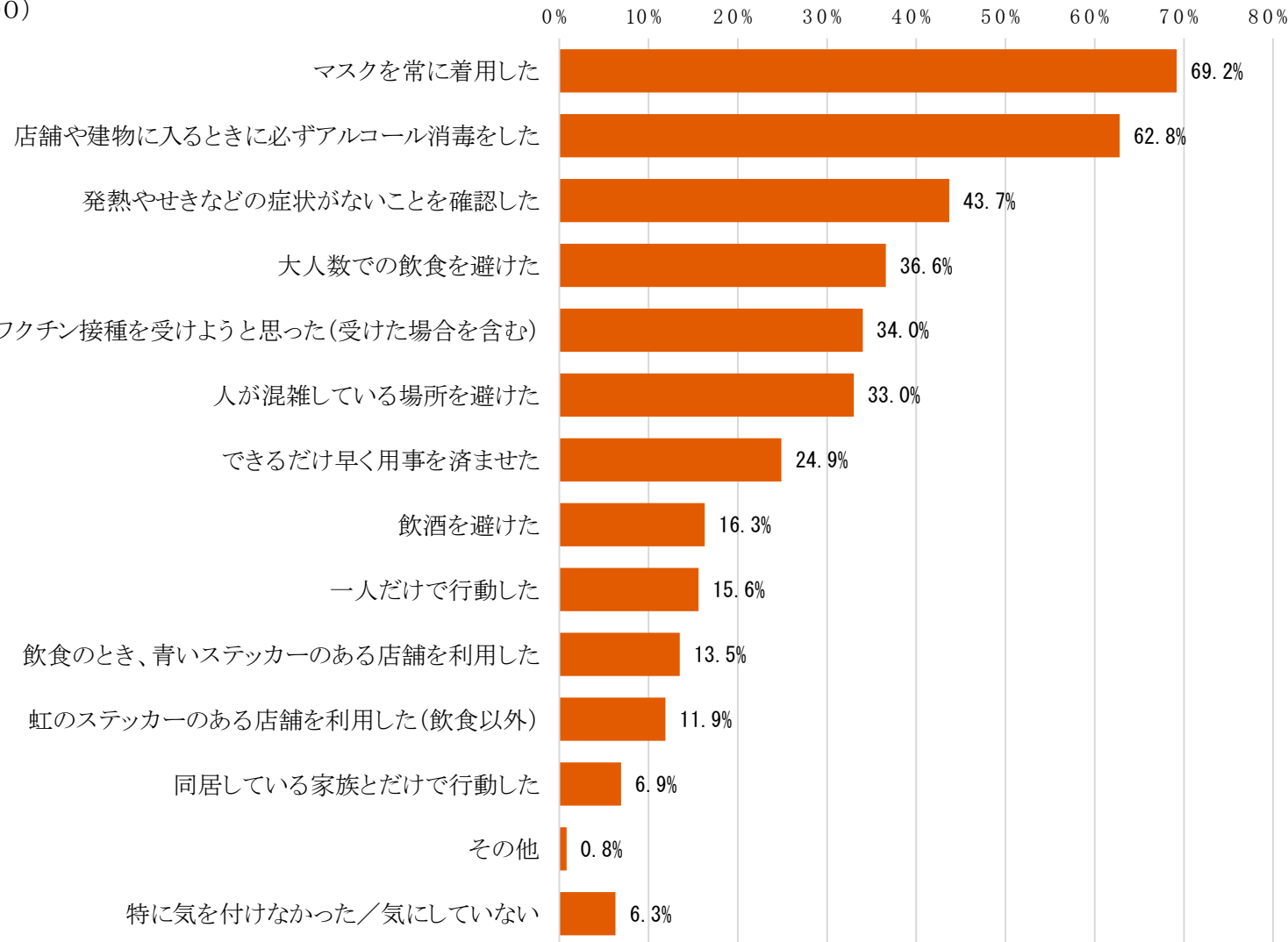


- ◆ 全体の7割程度は夕方から22時頃までの滞在となっている。
- ◆ 六本木周辺と歌舞伎町周辺の男性は深夜、翌朝まで滞在している割合が高くなっている。
- ◆ 20時を超えて滞在している者が半数以上を占めており、リバウンド防止措置期間が終了し、都の認証を受けた飲食店や施設への時短営業の要請が解除されたことも影響していると考えられる。

Q5

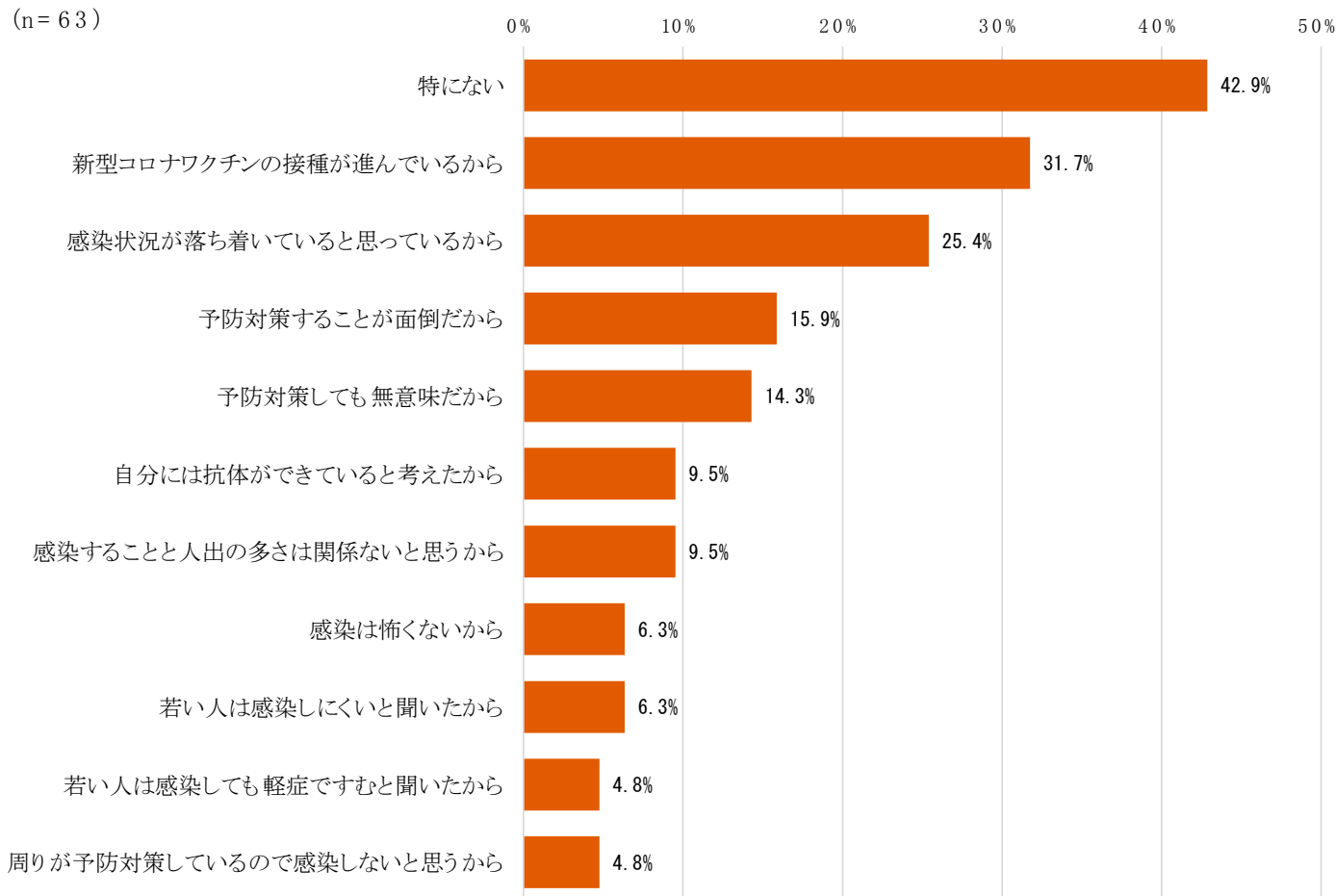
滞在時に気を付けたことはありますか？【複数回答】

(n = 1,000)



- ◆ 6割以上がマスク着用、手指消毒と基本的な感染症対策に取り組んでいる。
- ◆ 発熱やせきなどの症状がないことを確認したのは約4割、新型コロナワクチン接種を受けようと思ったも約3割にとどまっている。
- ◆ 「飲食のとき、青いステッカーのある店舗を利用した」、「虹のステッカーのある店舗を利用した(飲食以外)」回答したのはそれぞれ約1割と、都のステッカーのある店舗を意識して利用している人が少ない。

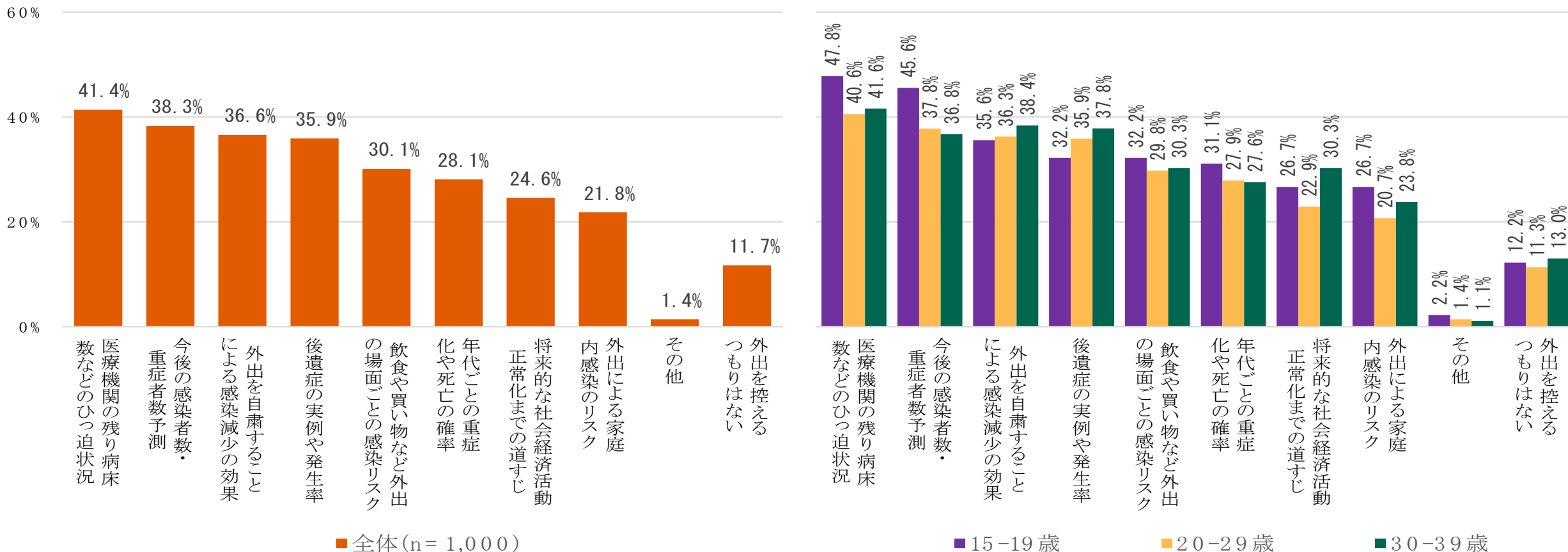
Q6 (Q5で「特に気を付けなかった／気にしていない」と回答した人) 特に気を付けなかった理由は何ですか？【複数回答】



- ◆ 「特に気を付けなかった」との回答者は少数であるが、その中の約4割が「特にない」と回答。
- ◆ 「新型コロナワクチンの接種が進んでいるから」、「感染状況が落ち着いていると思っているから」との回答も多く、感染対策の緩みに繋がっている可能性がある。
- ◆ 「予防対策することが面倒」「予防対策しても無意味」との回答もあり、基本的な感染防止対策についての啓発を継続する必要がある。

Q7

新型コロナウイルスの感染状況が悪化した場合、どのような根拠が示されれば外出を控えようと思いますか？【複数回答】



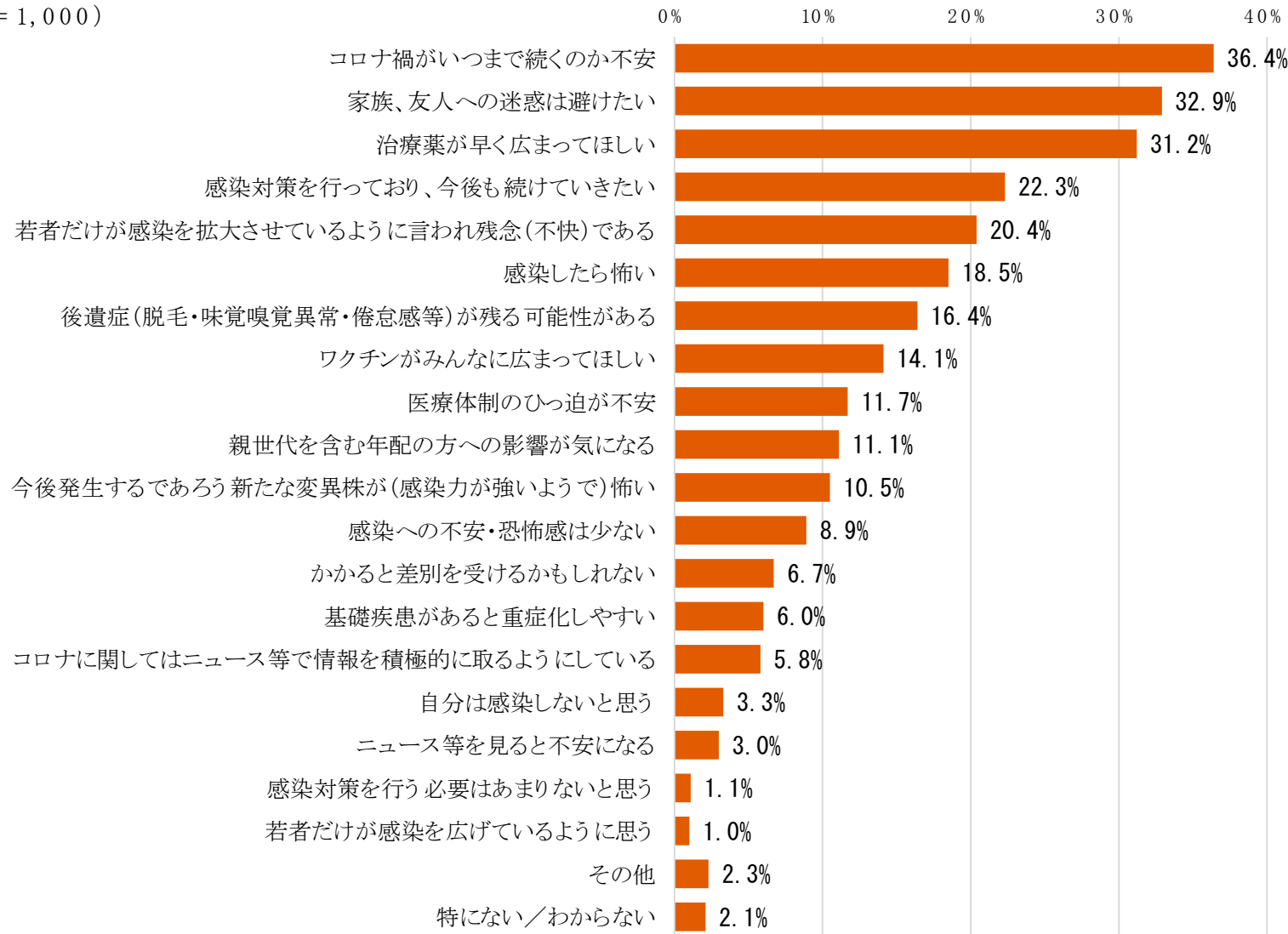
- ◆ 「医療機関の残り病床数などのひっ迫状況」が最も多い。十分な医療を受けられなくなることに対する不安により、外出を控えようとする意識が働くものと考えられる。「今後の感染者数・重症者数予測」「外出自粛による効果」「後遺症の発生率」との回答が続く。
- ◆ 「外出を控えるつもりはない」が1割以上。

Q8

新型コロナウイルスに対して、現在よく考えていること、感じていることは何ですか？

【複数回答】（上位3つまで）

(n = 1,000)

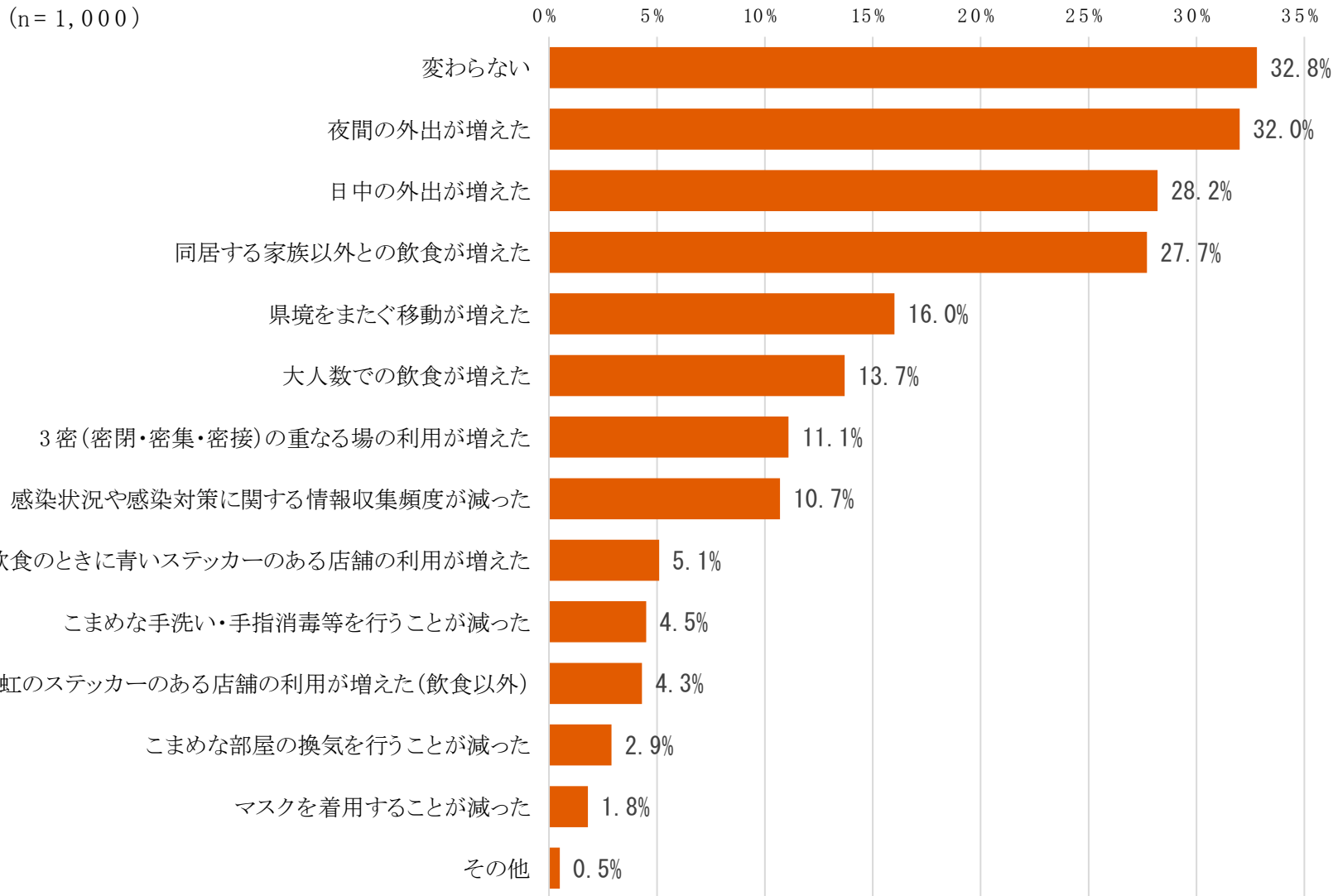


- ◆ 全体の4割弱が「コロナ禍がいつまで続くのか不安」と回答。
- ◆ 「感染対策を行っており、今後も続けていきたい」との回答は2割にとどまり、感染対策の継続について啓発することが必要。
- ◆ 「若者だけが感染を拡大させているように言われ残念(不快)である」との回答が2割あり、若者へのメッセージには配慮が必要。
- ◆ 「治療薬が早く広まってほしい」が「ワクチンがみんなに広まってほしい」の2倍以上となっており、ワクチン接種が進んでいる状況も踏まえ、治療薬への期待が高い。

Q9

令和3年9月末の緊急事態宣言解除前後で、感染症対策に関する行動はどう変わりましたか？【複数回答】

(n = 1,000)



- ◆ 夜間に繁華街へ外出している若者の約3割が緊急事態宣言解除前後でも「変わらない」と回答しており、緊急事態宣言中にも変わらず外出していた可能性がある。
- ◆ 「夜間の外出」「日中の外出」が3割程度増加。飲食や移動も増加しており、緊急事態宣言解除後は行動が増えている。
- ◆ マスクや換気、手指消毒等を行うことが減ったとする回答は少ない。